

英国の性犯罪者処遇プログラムにおける本件犯罪の扱いについて

1 概要

全9課程により構成されるプログラムの第2課程において（別紙参照），自らの再犯リスクの高まりを表す要因を対象者に同定させるため，人生における良い出来事と悪い出来事を振り返るワークが実施され，ここでは，本件犯罪を含む，過去の犯罪も扱われることになっている。ただし，犯罪内容について語ることは必ずしも求められず，自分の犯罪の背景にある考え方・行動傾向・感情のパターンについて分析することに主眼が置かれる。分析に当たっては，「Life Map」というツールが使用される。

具体的には，以下のとおり。

2 Life Map の作成（第2課程・計4セッション）

まず，Old Me（犯罪や良くない状況につながる考え方や行動。個人のリスク要因。）と New Me（犯罪を遠ざける考え方や行動。個人の保護的要因。）という概念について具体例に触れながら理解させる。

次に，対象者それぞれの Life Map を作成する。Life Map は現在に至るまでの人生の上がり下がりをグラフにしたものであり，白紙の中央を横切る線を引き，良い時はグラフが中央線より上に来て，悪い時は中央線より下に来る形で，人生を一本の線で表す。Life Map には，犯罪歴や，重要な性的経験が書き込まれることになっている。グラフの方向が変化する地点は，目立った人生の出来事や人生の転機があった瞬間であり，対象者は，ここで何が起きたか説明する。このとき，対象者は，ある経験の内容を詳細に語ることよりも，その経験が Old Me 又は New Me の形成にどのように影響したか語ることを求められる。

その後，人間関係やライフスタイル，性的体験，問題解決，感情の扱い，ポルノの使用に着目して Life Map を発展させる。これにより，経験から犯罪へのつながりを説明できるパターンを特定する。

完成した Life Map は，対象者自身によりグループ内で発表される。発表は，「これまでの人生で，Old Me が強く表れて問題を起こしていたのはいつか」「New Me が表れて成功をもたらしたのはいつか」といった観点からなされる。

3 Life Map の活用（第3課程以降）

Life Map は，第3課程において復習された後，思考，感情，行動等を扱う各課程において参照される。特に性に関する考え方や行動，人間関係，コーピング等について考えるときに，Life Map を参照するよう求められる。例えば，感情コントロールについて扱う第6課程では，Life Map から，これまでの人生で特徴的な感情を挙げ，その感情が起きる引き金を特定するとともに，可能な限り，犯罪をした時の感情や，その引き金となつた出来事についても考えさせる。

別紙 Horizon の構成

課程	時間数
個別セッション	1.5~2
第1課程: グループへの参加(プログラムの説明など)	2
第2課程: 前へ進む(<u>自らのリスク要因と保護的要因の理解</u> , コーピングスキルの紹介)	8
個別セッション	1.5~2
第3課程: 新しい私の目標	2
第4課程: 成功を支える(セルフコントロール, 肯定的なアイデンティティ)	4
第5課程: 新しい私とセックス(セックスに関する健全な考え方や行動)	12
第6課程: 感情をコントロールする(感情が行動に及ぼす影響)	10
第7課程: 問題を解決する(問題解決訓練)	8
第8課程: 良い人間関係(自らの人間関係の振り返り, 他者への共感, アサーティブネス)	10
第9課程: 出発する(今後のライフスタイル)	6
個別セッション	2